



URL レポートによる Crystal レポートの表示

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 Support Package 2

2011-05-06

著作権

© 2011 SAP AG. All rights reserved. SAP、R/3、SAP NetWeaver、Duet、PartnerEdge、ByDesign、SAP Business ByDesign、および本書に記載されたその他のSAP製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、ドイツおよびその他の国々におけるSAP AGの商標または登録商標です。Business ObjectsおよびBusiness Objectsロゴ、BusinessObjects、Crystal Reports、Crystal Decisions、Web Intelligence、Xcelsius、および本書で引用されているその他のBusiness Objects製品、サービス、ならびにそれぞれのロゴは、米国およびその他の国々におけるBusiness Objects S.A.の商標または登録商標です。Business ObjectsはSAPのグループ企業です。本書に記載されたその他すべての製品およびサービス名は、それぞれの企業の商標です。本書に記載されたデータは情報提供のみを目的として提供されています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書の内容は、予告なしに変更されることがあります。また、これらの文書はSAP AGおよびその関連会社(「SAPグループ」)が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAPグループは文書に関する誤記・脱落等の過失に対する責任を負うものではありません。SAPグループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。

2011-05-06

目次

第 1 章	はじめに.....	5
1.1	このドキュメントについて.....	5
1.1.1	このドキュメントの対象者.....	5
1.1.2	Crystal Reports URL レポートについて.....	5
1.2	リンクの移行.....	6
1.2.1	デフォルト URL パスの変更.....	6
1.2.2	使用停止されたコマンド.....	7
第 2 章	URL 構文.....	9
2.1	基本的な URL 構文.....	9
2.2	URL 構文に関する考慮事項.....	9
第 3 章	コマンド リファレンス.....	11
3.1	認証コマンド.....	12
3.1.1	apstoken.....	13
3.1.2	apsuser、apspassword、apsauthtype.....	13
3.2	ドキュメント識別子コマンド.....	14
3.2.1	id.....	14
3.3	入力コマンド.....	14
3.3.1	gf.....	14
3.3.2	promptex (ユースケース 1).....	15
3.3.3	promptex (ユースケース 2).....	16
3.3.4	promptex (ユースケース 3).....	17
3.3.5	promptex#.....	18
3.3.6	promptOnRefresh.....	19
3.3.7	sf.....	19
3.3.8	sPartContext.....	20
3.3.9	sReportMode.....	20
3.3.10	sReportPart.....	21
3.4	出力コマンド.....	22
3.4.1	cmd および EXPORT_FMT.....	22
3.4.2	EXPORT_OPT.....	23

3.4.3	init.....	23
3.4.4	sZoom.....	24
付録 A	より詳しい情報.....	25
	索引	27

はじめに

1.1 このドキュメントについて

注

URL レポート機能を提供するアプリケーションは、従来の Crystal Reports URL レポート(このガイド)と OpenDocument の 2 つがあります。新規の開発には OpenDocument の使用をお勧めします。SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システム内の Crystal レポート(.rpt)などのコンテンツにアクセスする方法としては、OpenDocument の方が適しています。OpenDocument は、Web Intelligence、Analysis ワークスペース、BI 起動パッドワークスペース、SWF ファイルなどのドキュメント形式もサポートしています。これで、異なる種類のドキュメント同士をリンクすることができます。OpenDocument Web アプリケーションと、その URL 構文やパラメータの詳細については、『OpenDocument によるドキュメントの表示』を参照してください。

このドキュメントは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform システム内の SAP Crystal Reports にリンクするパラメータ付き URL の作成について説明します。URL コマンドごとに、構文と使用例を含むコマンドリファレンスが用意されています。

BI platform のインストール後に CrystalReports Web アプリケーション(URL レポートを含む)をデプロイする方法については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform Web アプリケーション デプロイメント ガイド』を参照してください。

1.1.1 このドキュメントの対象者

このドキュメントは、URL レポート構文を使用して Crystal レポートの URL を作成するユーザーを対象としています。次の作業を行うユーザーは、このガイドを参照することをお勧めします。

- ・ 電子メールなどの直接的方法によって Crystal レポートへのハイパーリンクをエンドユーザーに提供する。
- ・ Crystal レポートへのハイパーリンクを別の Crystal レポートに埋め込む。
- ・ カスタムアプリケーションでプログラムによって Crystal レポートへのハイパーリンクを生成する。

BI platform インストール内のレポートの管理と構成に関する知識のほか、Crystal Reports デザインの概念に関する知識があると、理解に役立ちます。

1.1.2 Crystal Reports URL レポートについて

Crystal Reports URL レポート (viewrpt.cwr) は、BI platform インストール内にデプロイされる多くの Web アプリケーションの 1 つです。Crystal レポートの着信 URL 要求を Central Management Server (CMS) で処理し、正しいレポートをエンドユーザーの適切なビューアに提供します。これにより、レポートへの直接リンクをユーザーに送信できるため、ユーザーは BI 起動パッドなどでフォルダ階層内を移動する必要がありません。URL レポート構文とそのコマンドを使用して、これらのレポートにリンクする URL を作成できます。たとえば、次の URL を考えてみます。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1783
```

この URL は 1783 という一意の識別子を持つ CMS 内のレポートにアクセスし、そのレポートをエンドユーザーのデフォルトの SAP Crystal Reports ビューアに表示します。この例の id は、多くの URL コマンドの 1 つです。これらのコマンドは、CMS 内の特定のレポートにアクセスする方法を指定したり、エンドユーザーにレポートを表示する方法を決定します。レポートデータベース認証、パラメータプロンプト、および選択式の値を自動的に割り当てることもできます。

Crystal Reports Designer には、CMS 内に保存されている他のレポートやドキュメントへのハイパーリンクを作成して埋め込む際に役立つ GUI ベースのエディタが用意されています。この機能については、『Crystal Reports ユーザーズガイド』を参照してください。

1.2 リンクの移行

1.2.1 デフォルト URL パスの変更

SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、Crystal Reports URL レポート Web アプリケーション バンドルのデフォルト URL が変更されています。新しい絶対 URL レポートリンクでは、新しいデフォルト URL を使用する必要があります。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr
```

既存のリンクを含むレポートを XI 3.x リリース プラットフォームから移行する場合は、Web サーバーで次のリダイレクトを設定して、この問題を解決します。

- ・ リダイレクト元: ../CrystalReports/viewrpt.cwr
- ・ リダイレクト先: ../BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr

注

- ・ 設定したリダイレクトによってすべての URL 要求パラメータが正しく転送されることを確認します。リダイレクトを実装する方法の詳細については、Web サーバーのマニュアルを参照してください。
- ・ SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 では、URL レポート Web アプリケーションの Java デプロイメントのみがサポートされています。

1.2.2 使用停止されたコマンド

このセクションでは、SAP BusinessObjects Business Intelligence platform 4.0 で使用停止および廃止された Crystal Reports URL レポート作成コマンドを一覧します。

表 1-1: 使用停止のコマンド

パラメータ	説明	置換
connect	Page Server に再接続します。	これに代わるものはありません。
init=actx	Crystal Reports ActiveX ビューアを指定します。	代わりに、init=dhtml または init=part を使用してください。ActiveX ビューアは、このリリースで使用停止になりました。
init=java	Crystal Reports Java Applet ビューアを指定します。	代わりに、init=html または init=part を使用してください。Java Applet ビューアは、このリリースで使用停止になりました。
prompt#	各パラメータを値で指定します。Crystal Reports の以前のバージョン (Crystal Reports 7 など) の方法でパラメータ値を指定します。	代わりに、promptex または promptex# を使用します。
rptsrc	Central Management System (CMS) 内のマネージドレポートのレポートソースオブジェクトを参照するセッション変数を指定します。	代わりに id を使用して、表示するレポートを特定します。
user および password	レポートとそのサブレポートで使用するデータベースのログオン認証情報を指定します。	これに代わるものはありません。
user# および password#	レポートとそのサブレポートで使用するデータベースのログオン認証情報を指定します。	これに代わるものはありません。

表 1-2: 廃止されたコマンド

パラメータ	説明	置換
EXPORT_FMT=U2FXML:0	レポートがレガシー Crystal Reports XML 形式にエクスポートされるように指定します。	これに代わるものではありません。

URL 構文

2.1 基本的な URL 構文

以下の節では、URL レポートの使用方法と URL の作成方法について説明します。

URL レポートの URL の一般的な構造を次に示します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?<command1>&<command2>&...&<commandN>
```

注

変数は山かっこで示しています。これらの変数を適切な値に置き換えてください。たとえば、viewrpt.cwr Web アプリケーションにアクセスするには、<servername> に viewrpt.cwr がホストされているサーバーの名前を使用し、<port> に正しいポート番号を使用する必要があります。

デプロイメント

URL レポート アプリケーションは、Java アプリケーション サーバーにデプロイされます。アプリケーションが設定される場所に応じて、サーバー名とポート番号は Web サーバーに依存しますが、呼び出し規約はアプリケーション サーバーに依存しません。

2.2 URL 構文に関する考慮事項

URL レポート コマンドは、任意の組み合わせと順番で渡すことができます。id コマンド以外のコマンドは省略可能です。省略可能なコマンドを指定しない場合は、デフォルトのビューアにレポートが表示され、必要な情報があればユーザーに入力を求めます。

URL で Crystal レポートにアクセスするときに、ユーザーが情報の入力を求められるかどうかは、いくつかの要因で決まります。ユーザーは、次の状況で入力を求められます。

- ・ レポートがユーザーによるパラメータ値または認証情報の入力を必要とする。
- ・ レポートに保存データがなく、データベースにアクセスする必要がある。
- ・ ユーザーがレポートを最新表示しており、データベースにアクセスする必要がある。
- ・ プロンプトの値がまだ設定されていないか、SDK または CMC を通じてプロンプトが有効に設定されている。
- ・ apstoken または apsuser、apspassword、および apsauthtype 値が指定されていない場合、ユーザーは Central Management Server (CMS) にログオンするように求められます。

コマンド リファレンス

このセクションは、使用できる URL レポート コマンドの詳細、その固有の使用方法、および使用例を提供します。

表 3-1: 認証コマンド

コマンド	説明
13 ページの「 apstoken 」	現在の Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。
13 ページの「 apsuser 、 apspassword 、 apsauthtype 」	CMS へのログオンに使用する認証情報を指定します。

表 3-2: ドキュメント識別子コマンド

コマンド	説明
14 ページの「 id 」	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。

表 3-3: 入力コマンド

コマンド	説明
14 ページの「 gf 」	レポートのグループ選択式を指定します。
15 ページの「 promptex (ユースケース 1) 」	レポートおよびサブレポート内のパラメータ フィールドの値を指定します。16 ページの「 promptex (ユースケース 2) 」、17 ページの「 promptex (ユースケース 3) 」、および 18 ページの「 promptex# 」も参照してください。

コマンド	説明
19 ページの 「promptOnRefresh」	レポートを最新表示したときにパラメータ フィールド値の入力を求めるかどうかを指定します。
19 ページの 「sf」	より詳細にレコードをフィルタ処理するための選択式を指定します。
20 ページの 「sPartContext」	レポートパーツのデータ コンテキストを指定します。sReportPart と共に使用します。
20 ページの 「sReportMode」	レポート表示に使用するモードを指定します。
21 ページの 「sReportPart」	表示するターゲット レポートのパーツを指定します。

表 3-4: 出力コマンド

コマンド	説明
22 ページの 「cmd および EXPORT_FMT」	レポートのエクスポートを指示し、エクスポート形式を指定します。EXPORT_OPT と組み合わせて使用します。
23 ページの 「EXPORT_OPT」	エクスポートするレポートのページ範囲を指定します。cmd=EXPORT および EXPORT_FMT と組み合わせて使用します。
23 ページの 「init」	レポート表示に使用するビューアを指定します。
24 ページの 「sZoom」	レポート表示に使用する拡大率を指定します。

3.1 認証コマンド

3.1.1 apstoken

構文	説明	値
apstoken	Enterprise セッションの有効なログオントークンを指定します。	現在の Enterprise セッションのログオントークン。

現在のユーザーのログオントークンが含まれます。ユーザーが認証情報を再度要求されることなくレポートにアクセスできるように、この情報を URL に含めることができます。新しいログオントークンを作成すると、1 つの追加ライセンスが使用されます。

例

この例では、BI platform Java SDK を使用して、URL にログオン トークンを渡します。ILogonTokenMgr.createLogonToken メソッドの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence platform Java API リファレンス』を参照してください。.NET や Web サービスなどの他の BI platform SDK を使用しても、同様の方法でログオン トークンを作成できます。

```
String viewReportURLToken() throws SDKException, UnsupportedEncodingException
{
    IEnterpriseSession sess = CrystalEnterprise.getSessionMgr().logon ("username", "password", "<cms>:<port>", "secEnterprise");
    String token = sess.getLogonTokenMgr().createLogonToken("",120,100);
    String tokenEncode = URLEncoder.encode(token, "UTF-8");
    return ("http://<server>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&apstoken=" + tokenEncode);
}
```

3.1.2 apsuser、apspassword、apsauthtype

構文	説明	値
apsuser apspassword apsauthtype	CMS へのログオンに使用する認証情報を指定します。	CMS へのログオンに使用する有効なユーザー名、パスワード、および認証の種類 (secEnterprise、secLDAP、secWinAD)。

ユーザーが電子メールでレポートを受け取り、そのレポートを表示するために CMS にログオンする必要がある場合など、状況によっては、これらのコマンドを使用する必要があります。ただし、ほとんどの場合は、apstoken コマンドを使用して、有効な Enterprise セッションを URL に渡すことをお勧めします。

例

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&apsuser=JLee&apspassword=secret&apsauthtype=secEnterprise`

3.2 ドキュメント識別子コマンド

3.2.1 id

構文	説明	値
id	CMS 内の表示可能なドキュメントの一意の識別子を指定します。	CMS 内のドキュメントに関連付けられた数値識別子。

ドキュメントの識別子の値は、セントラル管理コンソール (CMC) または BI 起動パッドアプリケーション内で確認できます。各ドキュメントのプロパティページにドキュメント ID があります。BI platform SDK を使用して、プログラムから識別子を取得することもできます。たとえば、Java SDK の `com.crystaldecisions.sdk.occa.infostore.IInfoObject` インターフェイスには、URL を渡すことができる `getID` メソッドが含まれています。

例

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152`

3.3 入力コマンド

3.3.1 gf

構文	説明	値
gf	レポートのグループ選択式を指定します。	有効な Crystal Reports グループ選択式。

注

- ・ SAP Crystal Reports for Enterprise で作成された Crystal レポートでは、gf および sf コマンドがサポートされません。これらのコマンドは、SAP Crystal Reports 2011 で作成されたレポートでのみサポートされます。
- ・ 同じ sf コマンドと gf コマンドが適用され、ログイン情報が必要でないレポート間では、ページが共有されます。
- ・ DHTML ビューアでは gf コマンドを使用できません。URL で init コマンドを指定し、ActiveX または Java ビューアを選択する必要があります。

例

次の例は、各地域内のすべての顧客売上の合計が 10,000 より大きいすべてのグループを選択するグループ選択式を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&init=java&gf=Sum({customer.Sales},{customer.Region})>10000
```

3.3.2 promptex (ユースケース 1)

構文	説明	値
<pre>promptex-<promptname> promptex-<promptname>@<subrpt></pre>	パラメータの値を名前で指定します。	<promptname> と <subrpt> は、パラメータフィールドプロンプトとサブレポートの名前を表す空でない文字列です。これらの名前はレポート内で定義されます。<value> は単一文字列です。

注

URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

例

次の例は、「sample」という名前のパラメータの値として「hello」を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample="hello"
```

次のサブレポートの例は、「mysubrpt」という名前のサブレポートの「sample」という名前のパラメータの値として「hello」を渡します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample@mysubrpt="hello"
```

注

- 既存のレポートをサブレポートとして挿入した場合、サブレポート名にはファイルの拡張子 (.rpt) が付きます。ただし、サブレポートがメインレポート内で作成された (レポートエキスパートを使用して新しいレポートを作成し、[サブレポートの挿入] を使用) 場合は、サブレポート名にファイル拡張子がない場合があります。その場合は、[サブレポートの挿入] ダイアログボックスの [レポート名] テキストボックスで拡張子を追加しない限り、「user0@subreportname」という形式のサブレポート名が表示されます。
- 円マーク (¥) はエスケープ文字なので、その直後の文字として解釈されます。引用符と円マークは URL の予約文字なので、「エスケープする」必要があります。「@」、「.」、または「¥」をサブレポート名、サーバー名、データベース名、またはパラメータ名で使用する場合は、エスケープする必要があります。

3.3.3 promptex (ユースケース 2)

構文	説明	値
<pre>promptex-sample="<value A>","<value B>","<value C>" promptex-sample=["<value A>"-"<value B>"]</pre>	1 つのパラメータに複数の値を指定します。	<p><promptname> と <subrpt> は、パラメータフィールドプロンプトとサブレポートの名前を表す空でない文字列です。これらの名前はレポート内で定義されます。</p> <p><value A>、<value B>、および <value C> は文字列です。間隔の範囲については、以下の表を参照してください。</p>

注

URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

例

次の例は、fruits という名前のパラメータの値として Apples、Oranges、および Grapes を指定します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-fruits="Apples","Oranges","Grapes"
```


例

角かっこは、指定された数値までが範囲に含まれることを示します。丸かっこは、指定された数値自体は範囲に含まれないことを示します。例:

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample=["5"-11"]`

両方が丸かっこなので、5 と 11 の間のすべての値を指定し、5 と 11 は含みません。

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample=["5"-11"]`

角かっこと丸かっこの組み合わせなので、5 と 11 の間のすべての値を指定し、5 を含み、11 は含みません。

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-sample=(-11"]`

この丸かっことマイナス記号は、11 より小さいすべての値を指定し、11 は含みません。

次の表に、使用できる有限の範囲と有限でない範囲を示します。

有限の範囲	有限でない範囲
<code>["<value>"-"<value>"]</code>	<code>("<value>"-)</code>
<code>("<value>"-"<value>"]</code>	<code>["<value>"-)</code>
<code>["<value>"-"<value>")</code>	<code>(-"<value>")</code>
<code>("<value>"-"<value>")</code>	<code>(-"<value>"]</code>

3.3.4 promptex (ユースケース 3)

構文	説明	値
<pre>promptex-<prompt name>="Date(YYYY,MM,DD)" promptex-<prompt name>=["Date(YYYY,MM,DD)"- "Date(YYYY,MM,DD)"]</pre>	単一値または日付範囲の方法を使用して、日付または日時パラメータ値を指定します。	渡される日付または日時パラメータ。特定の日付または日付範囲を渡すことができます。単一値の日付または日時パラメータの場合は、二重引用符が必要です。

注

URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

例

「birthdate」パラメータとして、2002 年 2 月 2 日の日付値を渡すには、次の URL コマンドを使用します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-birthdate="Date(2002,02,02)"
```

例

次の例では、DateRangeParameter がパラメータ名です。値を囲む角かっこは、指定された日付が範囲に含まれることを示します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex-DateRangeParameter=["date(1996,02,18)"-"Date(1996,09,10)"]
```

日付値を囲むかっこの種類により、それらの値が日付範囲に含まれるかどうかを指定できます。

- ・ 値が角かっこ [] で囲まれる場合は、指定された日付が範囲に含まれることを示します。
- ・ 値が丸かっこ () で囲まれる場合は、指定された日付が範囲に含まれないことを示します。

3.3.5 promptex#

構文	説明	値
promptex#	promptex# コマンドは、以前の prompt# コマンドの拡張バージョンです。新しい表記法では、パラメータ値を引用符で括ることで、値が文字列であることを明示します。すべてのパラメータ値は文字列としてレポートに渡され、数値として渡されるべき値はレポートによって文字列から数値に変換されます。	<promptname> と <subrpt> は、パラメータフィールドプロンプトとサブレポートの名前を表す空でない文字列です。これらの名前は、レポート内で定義されます。<value> は単一または複数の値を持つ文字列です。

レポートに複数のパラメータフィールドが含まれる場合は、prompt# のインデックス値を順に増やして複数の値を渡すことができます。たとえば、promptex0="CA"&promptex1="1000"。プロンプトは、任意の順序で URL に指定できます。たとえば、promptex1 を promptex0 の前に指定してもかまいません。ただし、インデックス番号は、プロンプトがレポート内で出現する順序と一致する必要があります。

注

- ・ URL で渡されるパラメータは、レポートインスタンスに保存データが含まれる場合でも、常にレポートに適用されます。

- ・ promptex# パラメータが適用されるレポートのページは共有されません。ページはユーザーごとにキャッシュされます。つまり、キャッシュに保存されたページは、そのページを最後に表示したユーザーのために予約されます。
- ・ promptex# コマンドは、メインレポートのパラメータに値を渡す場合にのみ使用できます。サブレポートのパラメータに値を渡す場合は、prompt コマンドまたは promptex コマンドを使用する必要があります。

例

次の例は、レポートの最初のパラメータの値として「CA」を渡します。

[http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex0="CA"](http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptex0=)

3.3.6 promptOnRefresh

構文	説明	値
promptOnRefresh	レポートを最新表示したときにパラメータフィールド値の入力を求めるかどうかを指定します。	値は 0 または 1 を指定する必要があります。0 は False、1 は True です。

例

<http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&promptOnRefresh=1>

3.3.7 sf

構文	説明	値
sf	より詳細にレコードをフィルタ処理するための選択式を指定します。	有効な Crystal Reports 選択式。

注

SAP Crystal Reports for Enterprise で作成された Crystal レポートでは、gf および sf コマンドがサポートされません。これらのコマンドは、SAP Crystal Reports 2011 で作成されたレポートでのみサポートされます。

sf コマンドを使用して URL から渡された選択式は、既にレポートに設定されている選択式に追加されます。つまり、まずレポートと共に保存されている既存の選択式に基づいてレポートが生成され、そのレコードセットに sf コマンドで指定された選択式が適用されます。

たとえば、カリフォルニア州にある映画スタジオのレコードを選択する選択式がレポートに既に含まれているとします。次に、sf コマンドを使用して、「Universal」などの特定のスタジオのレコードを選択する式を追加します。カリフォルニア州に「Universal」の値を持つスタジオがある場合は、そのスタジオについての情報が表示されます。ただし、カリフォルニア州に基づいて既に選択されているレコードのサブセットに存在しないスタジオの値を sf コマンドで指定した場合、要求されたレポートにデータは含まれません。

注

新しい選択式は、元のレポートファイルには保存されません。これは、現在の URL 要求のみで有効です。

例

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&sf={studio.Studio}&=&'Universal'
```

3.3.8 sPartContext

構文	説明	値
sPartContext	レポートパーツのデータコンテキストを指定します。sReportPart と共に使用します。	レポートパーツのデータコンテキストの名前。

注

sReportPart および sPartContext コマンドは、DHML パーツビューア (init=part) でのみサポートされています。

例

次の例は、レポートパーツのデータコンテキストを指定します。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&sPartContext=/USA/CA
```

3.3.9 sReportMode

構文	説明	値
sReportMode	レポート表示に使用するモードを指定します。	<ul style="list-style-type: none">・ パート・ printlayout・ weblayout

注

- ・ このパラメータを使用する際のデフォルト値は printlayout です。したがって、不正な値が与えられると、コマンドはデフォルトの表示モードを使用します。
- ・ sReportMode は、init=html または init=dhtml の場合、または web.xml でデフォルトビューアが dhtml に選択されている場合にのみ適用可能です。
- ・ init=html または web.html でデフォルトのビューアが html に設定されているときの sReportMode=part は、URL で init=part と指定することと同じです。

例

次の例では、レポートのパーツを表示できます。

<http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&init=html&sReportMode=part>

3.3.10 sReportPart

構文	説明	値
sReportPart	表示するターゲットレポートのパーツを指定します。	レポートパーツの名前。

注

sReportPart および sPartContext コマンドは、DHML パーツビューア (init=part) でのみサポートされています。

例

次の例は、表示するレポートパーツを指定します。

<http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&sReportPart=graph3>

3.4 出力コマンド

3.4.1 cmd および EXPORT_FMT

構文	説明	値
<pre>cmd=EXPORT EXPORT_FMT=<EXPORT_FMT representation></pre>	<p>レポートのエクスポートを指示し、エクスポート形式を指定します。EXPORT_OPTと組み合わせて使用します。</p>	<p>エクスポート形式の値については、下の表を参照してください。</p>

表 3-20: エクスポート形式

エクスポート形式	Export_FMT representation
PDF	U2FPDF:0
Crystal Reports (RPT)	U2FCR:0
Microsoft Excel (97-2003)	U2FXLS:3
Microsoft Excel (97-2003) 拡張	U2FXLS:4
リッチテキスト形式 (RTF)	U2FRTF:0
Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	U2FRTF:1
Microsoft Word (97-2003)	U2FWORDW:0

例

次の例は、レポートをリッチテキスト形式 (RTF) にエクスポートします。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&cmd=EXPORT&EXPORT_FMT=U2FRTF:0
```

3.4.2 EXPORT_OPT

構文	説明	値
EXPORT_OPT	エクスポートするレポートのページ範囲を指定します。cmd=EXPORT および EXPORT_FMT と組み合わせて使用します。	有効なページ範囲。整数を角かっこで囲んだ [firstPage-lastPage] 形式で表します。firstPage の値は、lastPage の値未満でなければなりません。

注

値を指定しない場合は、デフォルトでレポート全体がエクスポートされます。これは、この値を「[-]」に設定することと同じです。

例

次の例は、レポートの最初の 4 ページをリッチテキスト形式 (RTF) にエクスポートします。

```
http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&cmd=EXPORT&EXPORT_FMT=U2FRTF:0&EXPORT_OPT=[1-4]
```

3.4.3 init

構文	説明	値
init	レポート表示に使用するビューアを指定します。	<ul style="list-style-type: none"> dhtml (DHTML ビューア) part (DHTML パーツビューア)

注

- 値を指定しない場合は、デフォルトでレポートの表示に DHTML ビューアが使用されます。
- DHTML および DHTML パーツビューアは、Java と .NET Web フォームの両方のバージョンに対応しています。

例

次の例は、DHTML ビューアを使用してレポートを表示することを指定します。

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&init=dhtml`

3.4.4 sZoom

構文	説明	値
sZoom	レポート表示に使用する拡大率を指定します。	拡大率を表す整数値。指定しない場合は、デフォルトの 100 になります。

例

`http://<servername>:<port>/BOE/CrystalReports/viewrpt.cwr?id=1152&sZoom=50`

より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	http://www.sap.com
SAP ヘルプ ポータル	<p>http://help.sap.com/businessobjects/ へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p>http://service.sap.com/bosap-support > ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インストール ガイド: https://service.sap.com/bosap-instguides ・ リリース ノート: http://service.sap.com/releasenotes <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p>https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	https://boc.sdn.sap.com/ https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	https://service.sap.com/notes これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums
トレーニング	http://www.sap.com/services/education 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	http://service.sap.com/bosap-support SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。

索引

A

apsauthtype 13
apspassword 13
apstoken 13
apsuser 13

C

cmd 22

E

EXPORT_FMT 22
EXPORT_OPT 23

G

gf 14

I

id 14
init 23

P

promptex
 ユースケース 1 15
 ユースケース 2 16
 ユースケース 3 17
promptex# 18
promptOnRefresh 19

S

sf 19
sPartContext 20

sReportMode 20
sReportPart 21
sZoom 24

い

移行 6

こ

構文 9
コマンド
 使用停止 7
 コマンドの概要 11

